

# えんちょう先生の わくわくだより

H30. 2. 27 NO. 23

## てぶくろ氷ができた！



年中さんと年長さんが毎月チャイルド社から取っているサンチャイルドの2月号「こおりとあそぼう」を読んだ子ども達が「園長先生～みて～」と大事そうに、大きな手形氷を抱えてきたのは、2月の始め頃だったのでしょうか。前夜からの凍みで、ビニール手袋に入れておいた水が凍って大きな手形氷になった事をおもしろがる子ども達でした。どこの子ども達も、こうした事には興味津々。遊びの中で、小さな科学の芽を育てています。先日教育新聞にもこんな記事が載っていました。

### 保育のこころもち

東京大学大学院教授 秋田 喜代美



## 苦みのある経験

寒さが厳しい時期は、氷や霜柱、雪などを経験する時でもある。ある園の子どもたちは、ゴム手袋に水を入れ、一晚屋上に置いておいた。「どうなってるかな」。みんなで見に行くと、手袋の中は硬く凍っていた。片方にはさみを入れて取り出すと、見事な手の形

子は、慌てて壊れた氷を集めようとした。そして、指の形をした1本の氷を持ち、恨めしそうに見詰めた。その時、後ろから一人の男の子が、「現行犯逮捕だ」と声を出した。それは、日ごろの刑事ごっこで使っていたセリフだった。しかし、その言葉は、女の

思いと共に、氷の扱いについて体験のある学びをしている。同時に、男の子も、何げない一言がどれほど友達を傷つけるかを学んだだろう。共にやるせない気持ちを抑え、「またやろう」と希望に変えることの大切さを、他の子どもも含めて学んだに違いない。

## つらさを乗り越える中にある深い学び

の氷が現れた。子どもたちは喜びの声を上げ、目を輝かせた。保育者は、それをそっと机の上に置いた。触ってみたい子どもたちに、保育者は「そっとだよ」と声を掛けた。

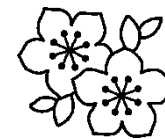
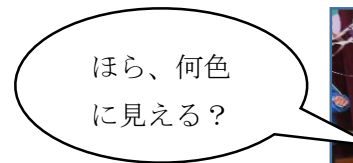
一人の女の子が触った途端、その氷は滑って崩れ、壊れてしまった。「あっ」。みんなの顔がこわばった。その女の

子の心に刺さった。保育者は、わざと壊したのではないことを代弁し、伝えている。しかし、男の子もやるせない気持ちが抑えられず、言い合い、にらみ合いになった。

保育者は女の子を抱き締め、その場を離れた。女の子も頭からフードをかぶって部屋に入る。この時、彼女は心痛む

深い学びは、楽しい探究だけではない。時につらい経験を乗り越えようとする中に、子どもの実存と切り結ぶ深い学びはある。氷の冷たさを超える子ども同士の温かな心の通い合いが、このクラスでは強まったに違いない。

## みんなが楽しみに待っている すいすい遊ぼうデー



「子ども達はこの日がとても楽しみに様です」とお母さん方から何度かこんな嬉しい声を聞きました。友達のまねをしたり、ちょっともだちのやり方と変えてみたり、大きい子が小さい子を手伝ってくれたり、失敗もしながら、次は成功！を目指したり、完成の喜びを友達と共有して自分で選んだ遊びをじっくりと楽しむ。穏やかな時間の流れの中で、言葉もぼんぼん飛び出し、安気に「やってみよう」と思え、楽しみながら手や指を動かしていく。こんな中で子ども達は育っていきます。与えられた遊びを与えられた様にやるだけではなく、勘考したり、試してみたり思いついたりして成長するのがこの年代のこどもの姿です。大きいお兄ちゃんやお姉ちゃんの遊ぶ所を、未満児組のちびっ子達も見学に来ているよ。